

最後に、秋祭りの今後の方向性について、昨日の藤原議員の熱い質問と重複する部分がございますが、本市の未来にフォーカスしてお伺いいたします。

新居浜太鼓祭りは全国的にも知られる勇壮華麗な祭礼であり市民の誇りであると同時に、市外からの観光客を引きつける大きな文化資産です。近年はインバウンド需要の高まりや、地域ブランドの強化と相まって、まさに本市を代表する財産となっています。

一方で、華やかな表舞台の影には幾つかの課題も存在しており、私も立ち会った大阪・関西万博において披露された太鼓台運行は大きな成功を収め、世界に向けて本市の文化を発信する契機となったことは誇らしい出来事ではありますが、その一方でインターネット上には、祭りのけんかをあおるような投稿や映像が拡散され、市民の一部からは、危険ばかりが強調されてしまうのではないかという懸念の声も聞かれます。

さらに、会場提供や後援を担っていただいている住友グループからは、安全面や市のイメージへの影響について、慎重な姿勢が示されるなど、祭りを盛り上げようとする足並みが必ずしもそろっていない状況があります。

このような状況の中で、未来の新居浜に何を残していくのかという根本的な問いに立ち返り、以下5点をお伺いいたします。

まず、5月に実施された万博会場での披露について、世界規模の舞台で地域を代表する文化資産を発信できたことは非常に大きな成果であり、市民の誇りを高め、次世代の子供たちにも自分たちの祭りに自信を持つ契機を与えたと考えます。本市としてはこの成功をどのように総括しているのでしょうか。また、今後、同様の機会があれば積極的に展開していく方針をお持ちかお伺いいたします。

四国三大祭として並び称される徳島市の阿波踊りや高知市のよさこい祭りは、首都圏で東京高円寺阿波踊りや東京よさこい、スーパーよさこいの開催によって広く認知されており、本市としても単なる一過性の成功に終わらせるのではなく、地域ブランドの強化や観光振興、さらには市民のアイデンティティー形成にどう結びつけていくのか、その具体策もお聞かせください。

次に、インターネット上でのけんかのあおりや暴力的な映像の拡散についてです。SNSの普及により、情報は瞬時に全国、さらには世界に届く時代となりました。その影響力は、よい面もあれば悪い面もあります。祭りの勇壮さを誇りとして発信する一方で、過度に危険をあおる表現が目立てば、外部からの誤解や批判を招きかねません。

こうしたインターネット上での情報拡散に対して、どのような危機意識をお持ちなのでしょう。また、主催団体や関係者と連携し、適切な広報戦略を取る、あるいは安全性を保証するための仕組みを整えるなどの取組を検討されているのか、お伺いいたします。

さらに重要なのは、祭りを支えていただいている住友グループとの関係です。本市の発展は、住友の歴史と切り離すことはできません。

祭りの開催に当たり、グループ関連施設やその周辺が利用されていることは、地域と企業との信頼関係に

基づくものです。しかし、その住友側から、工場前のかきくらべを取りやめるよう求める要望書が本市に対して提出されたことは、今後の持続可能性を考える上で看過できません。

本市として今後、住友グループとどのような協議を行い、理解を深めていくつもりなのでしょうか。今年には要望どおりかきくらべを取りやめて、来年以降、再開できるように取り組むとしておりますが、この機会に企業にとっても共に地域を育む意義が見いだせるような枠組みを本市の側から示すべきと考えますが、その点について、市長のお考えをお伺いいたします。

祭りは市民一人一人のものであると同時に、地域全体の協調によって初めて成り立ちます。しかし、現在は万博での成功を喜ぶ声、安全面に不安を抱く声、伝統を守りたい声、観光資源として活用したい声など、様々な意見が交錯しています。こうした多様な立場をどのように調整していくのか、市の役割が問われています。

伝統文化の継承と観光資源としての活用、安全性の確保と迫力ある魅力発信という相反する要素をどう両立させるのか、本市の基本的な考えをお伺いいたします。

先ほども質問した90周年記念事業の100周年に向けて、町の未来を語るにはうってつけの課題だと考えますが、市民や企業、行政が同じ方向を向いて議論できるプラットフォームを整備する考えはあるのかもお答えください。

ここで改めて根本的な問いになりますが、私たちは未来の新居浜に何を残していくのでしょうか。秋祭りは単なるイベントではなく市民の誇りであり、歴史と文化の結晶です。しかし、その形をどう受け継ぎ、どう次世代に伝えるかは私たちの責任にかかっています。

例えば、次世代を担う子供たちが安全かつ誇りを持って祭りに参加できるような仕組みづくり、女性や高齢者も含め、多様な市民が関われる形での祭りの進化、さらに世界に誇れる新居浜ブランドとしての観光、産業と結びつけて発信できる戦略。これらは全て未来への投資であり、単に現状を維持するだけでは到達できません。レガシーを残すためにどのようなビジョンが描かれているのでしょうか。

その答えを、市長から市民の皆様にも明確にお示しいただきたいと思いますので、御答弁よろしくお願ひいたします。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。藤田経済部長。

○経済部長（藤田清純）（登壇）秋祭りの方向性について、お答えいたします。

まず、大阪・関西万博の総括と今後の展開についてでございます。

大阪・関西万博での太鼓台派遣事業は、本市の魅力を世界に発信することができたとともに、市民のシビックプライドの醸成につながったのではないかと考えております。

今回の万博を契機として、新居浜太鼓祭りが市民や観光客の皆様にも愛され大きく発展していけるよう、各種事業を展開する中で、万博へ太鼓台を派遣したことの意義や未来へ伝えていくことの重要性等を本市の政策として、コンセプトに盛り込んでまいりたいと考えております。

次に、インターネット上のけんか

のあおりや暴力的な映像の拡散についてでございます。

SNSを通じた情報の拡散は、新居浜太鼓祭りの勇壮華麗さを発信する一方で、過度にけんかをあおるような情報が拡散されることについては、市としても大きな懸念を持っております。今後、過度にけんかをあおるような情報が拡散される事案がありましたら、情報の削除依頼など、祭りの主催者である各地区太鼓台運営委員会・協議会や関係団体と連携して取組を行ってまいります。

次に、住友グループとの関係についてでございます。

住友グループとは長年にわたり良好な関係を築いており、祭りの開催にも大変御協力をいただいております。しかし、7月31日付で工場前でのかきくらべに関する要望書が提出され、川西地区太鼓台運営協議会における協議の結果、今年の工場前でのかきくらべにつきましては中止という結果となりました。今後は関係機関で協議の場を設け、来年に向け引き続き対応策等について協議してまいりたいと考えております。

次に、多様な立場の方が関わり、また、相反する要素のある祭りをどのように調整して両立させていくのかについてでございます。

新居浜太鼓祭りに関しては、太鼓台関係者をはじめ、観光物産協会、商工会議所、神社関係者、にいはま女性ネットワークなど多様な関係者で組織している新居浜市太鼓祭り推進委員会がございます。その目的は、太鼓祭りを市民にとって平和で楽しい、親しみのある祭典にするとともに、観光面に寄与させ、伝統ある民族文化行事として発展させるための方策を検討し、推進することから、今後におきましても、新居浜市太鼓祭り推進委員会を中心に、その目的が達成できるような取組を引き続き行っていきたいと考えております。

また、100周年に向けて市民や企業、行政が議論できるプラットフォームについても、新居浜市太鼓祭り推進委員会がその役割を果たすものと考えております。

次に、レガシーを残すためどのようなビジョンが描かれているのかについてでございます。

秋祭りにつきましては、五穀豊穰を感謝する祭礼行事であるとともに、新居浜市の誇りであり、歴史文化の結晶と考えております。

この秋祭りを次世代に伝えるためには、太鼓祭りを市民にとって平和で楽しい、親しみのある祭典にするとともに、観光資源としての活用や文化の継承においても、発展させるための取組を推進することが必要であると考えております。今後におきましても、新居浜市太鼓祭り推進委員会を中心に、関係者の皆様とも力を合わせ、世界に誇れる新居浜太鼓祭りを未来につないでまいりたいと考えております。

○議長（田窪秀道） 再質問はありますか。渡辺高博議員。

○3番（渡辺高博）（登壇） 御答弁ありがとうございます。

祭りは人と人をつなぎ、地域の絆を深め、誇りを共有する場です。その在り方は時代とともに変化してきましたけども、根本にあるのは、新居浜の未来をより豊かにするという理念です。

私たちには、秋祭りを単なる伝統行事としてではなく、次世代に誇れる地域文化資産として再定義し、発

展させていく責任があると思います。昨日の藤原議員の熱い思い、私を含め、この議場にいる全ての方の思いもまた同じだと思います。

今年の秋祭りも1か月余りと迫ってまいりましたが、本日を契機に、改めて祭りの意義と未来を市民の皆様と共有し、持続可能な発展の道を描いていくことを強く期待して、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。